

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益財団法人鎌倉能舞台
公演団体名	公益財団法人鎌倉能舞台

内容
<p>① 能楽の基礎知識や歴史のお話。→プロジェクターを見ながら聞いて貰います。</p> <p>② 「謡曲」が江戸時代に武士の共通語の教科書となった解説の実践として、生徒全員で「敦盛」の一節を謡う体験をしてもらいます。(コロナ対応で声を出すのが難しい場合は省略)</p> <p>③ 本公演の当日に使用する能面、装束・小道具などを見せ、能面の視界の狭さや装束の重さを数名に体験してもらいます。</p> <p>④ 楽器の説明、使用可能になるまで数十年から数百年掛かる事などを話し、日本の伝統文化についても理解を深めてもらいます。小鼓の体験もしてもらいます。</p> <p>⑤ 「敦盛」のシテの型を生徒全員で練習します。</p> <p>※感染症予防のため、ワークショップを「本公演当日実施」・「教材送付(ウェブ鑑賞含む)」・「オンライン実施」・「短縮版で行う」など、状況や学校様のご希望に応じて柔軟に対応いたします。</p>

タイムスケジュール(標準)
<p>※出演者到着から開始まで 30 分、ワークショップは 1 校時間(←本公演当日の場合)(原則 2 校時間)。</p> <p>本公演当日に WS 開催の場合は、ワークショップ終了後、休憩を入れて、続けて本公演を行います。</p> <p>ご用意いただきたいもの : プロジェクター、スクリーン、能面等を置く長机を2台、マイク1本をご用意ください。</p> <p><input type="checkbox"/> WS 準備 (プロジェクター設置。装束や能面・楽器を長机に上げる) 30分</p> <p><input type="checkbox"/> ワークショップ 1 校～2 校時2校時分(途中休憩あり)</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
3名 (能楽師3名)

学校における事前指導

「能狂言のしおり」(ワークショップ資料)を事前にお送りいたします。
事前指導は特に必要ありません。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益財団法人鎌倉能舞台
公演団体名	公益財団法人鎌倉能舞台

演目
〈第一部〉
1: 始まりの御挨拶・解説少し(10分)
2: 狂言鑑賞 「柿山伏(かきやまぶし)」(15分)
3: 休憩(10分)
〈第二部〉
4: 囃子(はやし)お調べ(5分)
四拍子揃った能の楽器について説明を行います。
5: 仕舞(しまい)鑑賞 「船弁慶(ふなべんけい)」(5分)
囃子の演奏に合わせて「船弁慶」仕舞(しまい=紋付(着物)のまま舞う)鑑賞。
6: 能鑑賞 半能「敦盛(あつもり)」(25分)
プロジェクトによる字幕付き。動きのある後半を見て貰います。 コロナ対応により、出演者も舞台用マスクをつけて演じる場合があります。 詞章(ししょう)の一部分を生徒達も一緒に謡って貰います。 「謡」の一節を生徒全員で謡う体験はコロナ対応の場合省略。
5: 狂言体験ワークショップ 狂言の先生と、今見た狂言の所作を習い、体験します。(20分)
コロナ対応により書略可。実施の場合は全員マスクで密にならないよう実施します。
6: 質問コーナー 生徒さんからの質問にお答えいたします。(10分) (コロナ対応省略可)
公演時間(100分)

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者: 21名
スタッフ: 3名
合計: 24名

タイムスケジュール（標準）

コロナ対応により、当日、本公演の前にワークショップを行う場合のタイムスケジュールです。

※スタッフ・出演者到着から舞台設営・開始まで30分から1時間、公演が100分、公演終了後の撤収にかかる時間は30分程度です。

- **舞台準備**（簡易能舞台セットをスタッフと能楽師全員で設営します） 30分～1時間
- **ワークショップ** 公演に先立ち、能楽師3名で事前ワークショップを行います。
- **休憩** 20分
- **公演** 100分（途中10分の休憩あり）（学校の要望により短縮も可）
- **片付け**（簡易能舞台セットをスタッフと能楽師全員で片付けます） 30分

実施校への協力依頼人員

簡易舞台セットで体育館に「能舞台」を作ります。（簡易柱・欄干、揚げ幕、鏡板）

設置時間&撤収にかかる時間はそれぞれ30分～1時間、設置・撤収ともに実演者側で行いますが、搬入・搬出時に、運び入れや、舞台設置場所の指示等のお手伝いを先生方にいただければ幸いです。（コロナ対応により難しい場合は、能楽師・スタッフのみで行いますのでお手伝い頂かなくて大丈夫です）

また、映像用の映像を入れた PC は持参しますので、プロジェクター・スクリーンのご用意と、設置のお手伝いもお願いできればと思います。

演目解説

狂言「柿山伏(かきやまぶし)」

小学6年生国語の教科書に載っている演目を鑑賞してもらいます。

[あらすじ]:

修行を積んだ山伏も人の子、腹が減れば食べ物が欲しくなる。枝もたわわに実る柿に誘惑されて、登って食べていたら、畑主に見付かる。いまいましさに畑主は、烏よ猿よ鳶(とび)よと山伏をからかう。思わず木から飛降りた山伏は、したたかに腰を打って腹を立て、看病せよと祈り始める。さて効験のほどは……

山伏は山野での荒行で超人的な法力と体力を身につけ、庶民に恐れられていました。狂言の世界ではこれを見事に戯画化し、楽しい健康な笑いの種にしてみました。最もポピュラーな名作狂言の一つです。狂言の世界ではこれを見事に戯画化し、楽しい健康な笑いの種にしてみました。最もポピュラーな名作狂言の一つです。

半能「敦盛(のう あつもり)」

日本史に登場する、平家物語の名場面として名高い、平敦盛の最後の有様を示す「敦盛」を、わかりやすい形の能で観劇することにより、日本の歴史だけでなく古典についても子供たちに興味を持ってもらえます。

[あらすじ]:

一ノ谷の合戦にて自分の息子と同年であった十六歳の平敦盛を討ち取った熊谷次郎直実は後悔から出家をし、蓮生法師と名乗っていた。敦盛を弔おうと一ノ谷までやってきた蓮生は、笛の音とともにやってきた草刈りの男達と出会う。その中のひとり「青葉の笛」のことを語った後、敦盛の亡魂だとほのめかして蓮生に弔いを頼んで消え失せる。望みのままに蓮生が夜すがら読経していると、敦盛の亡霊が当時の甲冑姿で現れ、蓮生の非を責める。しかし蓮生は静かに受け止めさらなる弔いを行うと、敦盛は落ち着きを取り戻す。そして懺悔のため、合戦前夜の陣中の有様や当時の戦いの様子を敦盛は仕方話に舞い語る。やがて敦盛は、蓮生の供養により成仏できることに感謝をし、姿を隠すのであった。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

【能公演での児童・生徒の共演】

・敦盛が仕方話に舞示す「クセ」をワークショップで練習し、地謡と一緒に謡います。また、スクリーンに字幕を出して、現代語で、場面ごとの説明をお見せしながら見て貰います。(コロナ対応で声を出す、型を全員でやるのが難しい場合は、省略します)

【狂言体験での児童・生徒の参加】

・狂言と能を鑑賞した後の「狂言体験」のコーナーで、狂言の先生から狂言の基本的な「構え」や「運び(歩き方)」を教えて貰い、「柿山伏」で見た柿を食べる演技や、笑い方などを、舞台上上がった生徒と客席の全員で体験してもらいます。

児童生徒とのふれあい

体験ワークショップ

狂言と能の終了後、体験ワークショップを行います。

鑑賞した「柿山伏」に出演した狂言方が、曲中の台詞や所作を、代表して舞台上に上がった生徒と全員に体験してもらいます。(コロナ対応で難しい場合は省略します。実施する場合は全員マスクをつけたまま、密にならないよう工夫して実施します)

質問コーナー

能楽全般の質問に誠意を持ってお答えします。質問が多すぎて時間が足りない場合は、学校で取りまとめてもらえば責任を持って後日回答をいたします。(コロナ対応で時間を取るのが難しい場合は、後日、学校よりメール等で質問を受け付けます。)

アンケートの実施

公演終了後、児童生徒が能狂言にどれだけ興味を持ったか、アンケートを行います。